

保護者・生徒の協力のもと、本年度の学教評価を行いました。その結果の概要は以下の通りです。今回の結果を踏まえ、来年度の更なる改善を目指します。

【良好であると判断できる項目】

- 学校経営方針に基づき、校務分掌を遂行できている。
- 生徒が互いに高め合うことができるような「学びに向かう集団」づくりに努めている。
- 授業のねらいを明確にし、振り返りを行い、学習内容の確実な定着に努めている。
- 授業をはじめ、様々な教育活動において、人権に配慮した実践をしている。
- いじめや不登校が起きにくい環境・雰囲気をつくり、予兆を見逃さないよう努めている。
- 規則正しい食生活や生活習慣が身につくよう適宜指導している。

【良好だが更なる改善が必要な項目】

- 先輩や同僚の理解や協力を得ながら、協働して業務を遂行している。
 - ・ A評価が71%で、C評価が8%であった。昨年度よりもよい状況である。今後は、さらに風通しのよい職場環境を構築していきたい。
- 生徒の自治的な能力や自主的な態度の育成に努めている。
 - ・ 教職員のA評価が20ポイント増加した。ここ数年、重点的に取り組んできた学級活動(1)の授業実践の成果が見えつつある。今後も継続実施をすることで定着を図りたい。
- 生徒が自ら考えたことを進んで表現する場を設けている。
 - ・ 教職員の肯定的評価は増加しているが、生徒・保護者は減少している。小中一貫教育重点項目でもあり、継続して取り組んでいる内容でもあるため、表現内容の質を高められるよう工夫していきたい。
- 周囲に流されることなく、自ら考え正しく判断できる生徒の育成に努めている。
 - ・ 教職員の肯定的評価が前年度より5ポイント減少し、C評価が4ポイント増加した。様々な教育活動において、学び合いによる「思考・判断・表現」の場面を設定し、より適切な判断ができるよう工夫していきたい。

【改善が必要な項目】

- 保護者や地域の方の要望や意見に耳を傾け、適切に対応している。
 - ・ 教職員のD評価が前年度は0%であったが、本年度は8%に増加した。要望等に適切に対応できなかったと感じている教職員が複数いるということである。保護者の皆様からの要望等に対して、学校全体で情報の共有化を図るとともに、その対応に関して、一人の教職員が担うのではなく、校務分掌等を生かした組織で対応できるよう改めて見直しを図りたい。
- 地域と関わりをもつ教育活動を推進している。
 - ・ 教職員の肯定的評価は増加したが、A評価は29%と低い状態である。各教育活動のねらい達成のために地域の教育力を活用するという視点で、積極的な関わりを推進していきたい。

【学校運営協議会委員からのご意見】

- 先生方、保護者、生徒とも前年度より自己評価が高くなっていることはよいこと。PTA行事として行った保護者・教職員合同研修会はよい取組である。更にブラッシュアップしてほしい。
- 地域連携の視点をもっともつべきである。地域とのふれ合いを増やすことで、地域の中학생に対する関心も増えるはずである。本校に対する悪い評判を聞く機会もある。そのマイナスイメージを払拭するためにも、積極的に進めていただきたい。
- 部活動地域移行のモデル校になっている。メリットだけでなく、デメリットも必ずあるはず。現行の取組について成果と課題を明らかにし、教育委員会にも情報提供をしていただきながら、生徒、保護者、先生方にとってよりよい方向性を模索して欲しい。